

令和7年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画		
学校運営方針	学校の教育目標及び重点目標を実現し、全ての生徒の可能性を引き出すために、全ての教職員が協働し、支え合い補い合いながら、その持てる力を結集した学校運営を実現する。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	～これから到来する変化の激しい時代においても、Well-Beingな生き方を持続可能にしているために、次の5つの資質・能力を卒業までに育みます～ 【精神的な自立】自分に向き合って、自分で自分を成長させていける力を育みます。 【社会的な自立】当事者意識を持ち、より良い社会づくりに取り組む力を育みます。 【経済的な自立】将来の経済的基盤を確保できる職業人に必要な準備力を育みます。 【希望への輝き】夢と希望の達成に向けて、粘り強く取り組んでいく力を育みます。 【ゆたかな情操】他者への思いやりと敬意を基本に、他者とのかかわる力を育みます。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	～上記の資質・能力の育成を目的として、本校が持つ次に示す特徴等を生かし、併せて生徒の発達・成長を考慮し、①から順番に⑥まで積み上げる教育を行います～ 特徴： <input type="checkbox"/> 自分だけの時間割 <input type="checkbox"/> 単位制 <input type="checkbox"/> 学校設定科目「自己探究」等 <input type="checkbox"/> 習熟度別学習 <input type="checkbox"/> 少人数制指導 <input type="checkbox"/> チームティーチング <input type="checkbox"/> 出雲崎町との包括連携協定による学習 ①【安全・安心な空間】生徒一人一人が、自他を尊重し、お互いの多様な個性を認め合う関係を育み、安全・安心な空間で学習できるように取り組みます。..... ②【自己存在感の感受】生徒一人一人が、自己理解・他者理解を深め、豊かな情緒的交流により、自分の存在価値を実感するような教育活動を展開します。..... ③【学びの価値の実感】生徒一人一人が、学びを楽しみ、学びが自分の可能性を広げていると実感し、好奇心を高め、主体的に取り組める授業を行います。..... ④【PDCAサイクル】生徒一人一人が、各々の活動に目的と目標を見出し、その達成に向け考え、実行し、振り返り、自己成長に繋げる指導を行います。..... ⑤【教育資源有効活用】生徒一人一人が、自己を取り巻く教育資源を正しく理解し、それらの有効活用を考え、自らの目標を達成できるよう促します。..... ⑥【自己決定する機会】生徒一人一人が、当事者意識を持って物事を捉え、自ら考え、判断し、自己決定していく経験を積むように教育活動を展開します。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	～教育の力で、無限の可能性を秘めた生徒一人一人を確実に伸ばすためにも、次の姿を期待します～ 【本校の理解】本校の教育目標に価値を見出し、本校で頑張りたいと考えている生徒 【自他の尊重】みんなが気持ち良く学校生活を過ごせるように、自他を尊重する生徒 【希望と抱負】学校生活における様々な体験を通して、仲間と情緒的な交流を図り、人間力を育みたい生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
【成果】 (1) 生徒の実態に応じた支援を組織的に丁寧に行い、生徒の成長に繋げることができた。 (2) 本校の教職員が培ってきた教育の魅力を正しく外部に情報発信し、入試倍率に繋げることができた。 【課題】 (1) 一人ひとりを伸ばし、輝かせる「魅力ある学校づくり」を組織的に検討・計画し、実践、評価・改善に繋げる。 (2) 出雲崎町にある小規模な単位制高校という特徴等を活かし、生徒が自立する教育をデザインして、生徒の個および	[A] ◆ <u>自立を育むカリキュラム・マネジメント(カマネ)の充実</u> ・進路指導(キャリア教育)、学習指導、生徒指導を一体化させつつ、他の活動とも連動して機能する様に教育をデザインし、組織的・計画的に取り組むことで生徒の自立を育む。	1)安全・安心な空間を目指しての生徒への働きかけ 2)学びに向かう力を育むような生徒への働きかけ 3)カリマネを支える「総合的な探究の時間」の充実 4)自己分析等を学びに繋げる「自己探究」の充実 5)情緒的交流と規律性を成長に繋げる学級活動の充実 6)学力3要素を高める教科・学習指導の工夫と充実 7)集団の価値を生かす学校行事・生徒会活動の充実 8)生徒自ら自己成長を目指してける学習環境づくり 9)道徳教育全体計画と清掃活動等による道徳心の涵養
	[B] ◆ <u>支援教育の仕組みの充実</u> ・支援教育のサイクルを組織的に回し、多様な生徒の発達と成長を支援する。	1)職員研修での学びを実践に生かす支援活動の組織化 2)年次・分掌の連携・協働による発達指示的生徒指導 3)生徒を育てる生徒支援に向けた生徒理解(アセスメント)と、教育相談体制の充実 4)ケース会議の開催とそれに基づくチーム支援の充実
	[C] ◆ <u>開かれた学校作りの促進</u> ・本校が外部を応援する、	1)保護者、出雲崎町、中学校等との相互理解の促進 2)本校の教育活動への理解を促進する積極的な情報発信 3)保護者との連携・協働、保護者への支援活動の充実

集団の発達と成長に向け、組織的・計画的な取組を行う。		外部から応援される相互関係を構築し、教育の質を深める。	4)出雲崎町（自治体、町民等）との連携・協働の充実 5)中学校の進路指導支援 6)評価等を生かした教育改善	
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
[A] カリマネ ・進路指導 (キャリア教育) 、学習指導、生徒指導を一体化させつつ、他の活動とも連動して機能する様に教育をデザインし、組織的・計画的に取り組むことで生徒の自立を育む。	1)安全・安心な空間の土台作り	①日々の生徒との関わりで、生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通した個と集団への働きかけを大切にする。		A A
	2)学びに向かう力の土台作り	①日々の生徒との関わりで、生徒自らが将来に思いを馳せ、進むべき進路の方向性を考え、学びの価値を実感できるような働きかけを大切にする。		A A
	3)「総合的な探究の時間」の充実	①本校卒業後の自己の在り方生き方を考えさせ、今・ここでの学びがどのような意味を持つのか自ら考え、判断させ、学びに向かう当事者意識を育ませる。		A
		②在り方生き方の質の向上に繋がる複数のスキルを取り上げ、理解させる。		A
		③知識として得た複数のスキルを日常の学校生活等に活用させて定着させる。		A A
	4)「自己探究」の充実	①多面的に自己分析・社会分析を図り、内発的に自己成長を求める姿勢を導く。		A
		②自己実現と希望進路実現の観点から、計画的に学ぶ姿勢を身に着けさせる。		A A
	5)年次・学級活動の充実	①級友の多様な個性を認め合い、お互いを助け合う情緒的交流を促進する。		A A
		②生徒が集団への所属意識を高め、集団の規範を重んじる姿勢を育ませる。		A A
	6)教科指導・学習指導の充実	①各単元にSTEAM教育と探究活動を取り入れ、学力3要素を向上させる。		A
②全ての生徒に配慮した学習のユニバーサルデザインに取り組む。		A		
③ICTを集団の中で活用させ、個別最適で協働的な学びのある授業に取り組む。		B		
④総合探究、自己探究で学んだスキルを授業の中で意図的に活用させていく。		B		
⑤学業不振者に単位制の各種制度を生かした積極的な単位修得を支援する。		C B		
7)学校行事及び生徒会活動の充実	①遠足、修学旅行、スポーツ大会、文化祭で所属感・連帯化等を育成する。		A	
	②より良い学校生活を自ら目指す生徒の気持ちに寄り添い、自治活動を促す。		A	
	③各種部活動、各種委員会活動が生徒の居場所となるように活性化を図る。		B A	
8)自己成長の主體的取組の促進	①各種検定試験や各種校外模試を用意し、進路に対する意識の啓発を図る。		C	
	②図書や新聞等の活字に自ら触れさせ、自分の成長への可能性を実感させる。		B B	
9)道徳心の涵養	①道徳教育全体計画により、教育課程内外で人権意識・人権感覚を涵養する。		A	
	②教室等の整理・整頓・清潔・清掃を自主的に取り組めるように指導する。		A A	
[B] 支援教育 ・支援教育のサイクルを組織的に回し、多様な生徒の発達と成長を支援する。	1)支援教育の土台作り	①職員研修を体系化し、研修での学びが日常の教育活動に反映しやすくする。		A
		②個に応じた組織的な支援に向け、生徒情報を共有する。		A
		③重点目標 [A] の充実により、教職員と生徒との信頼の絆を一層強める。		A A
	2)年次・校務分掌の連携・協働	①いじめ防止対策委員会を毎月開催し、年次・分掌の連携・協働を強化する。		B
		②発達支持的生徒指導に組織的・計画的に取り組む、問題行動を予防する。		B B
	3)生徒理解（アセスメント）及び教育相談活動の充実	①生徒観察・アンケート等の情報を生かし、教育相談の質を高める。		A
		②SC, SSWからのコンサルタントを生かし、支援教育の質を深めていく。		A
		③担任以外の職員も面談相手となり、人との関わりを生かして生徒を育てる。		A A
4)ケース会議・チーム支援の実施	①ケース会議を開催する基準を下げ、生徒のチーム支援に早期に取り組む。		A	
	②必要に応じて、積極的に医療機関や市町村福祉機関等と連携して取り組む。		A A A	
[C] 開かれた学校作り ・本校が外部を応援する、外部から応援される相互関係を構築し、教育の質を深める。	1)開かれた学校への土台作り	①保護者、同窓会、学校評議員、出雲崎町（自治体、町民）、包括連携協定の関係者、地元企業等と本校（教職員・生徒）の意見交換を図り、相互理解を図る。		A A
		②出雲崎町広報、駅の掲示板等に本校の教育活動を案内・紹介する。		A B A
	3)保護者への応援（連携、支援）	①保護者ニーズを捉えた研修を企画し、保護者の子育て支援を強化する。		A
		②家庭教育等に困り感のある保護者をSC、SSWと繋げ支援の充実を図る。		A A
	4)出雲崎を応援する・出雲崎から応援される関係	①生徒が地域ボランティア活動や地域行事等に積極的に参加するように促す。		A
		②出雲崎町民に本校の授業（講演会等）を公開し、生涯学習に貢献する。		A
		③包括連携協定に記載の第3条(3)の交流の促進の取組の検討を深める。		A A
	5)広く外部意見を活かした教育充実	①本校の学校自己評価表（計画）、グランドデザインを広く公開・周知する。		A
		②地域、本校生徒の保護者ニーズを収集し、教育改善の具体に生かす。		A
		③中学校、中学生、中学生の保護者ニーズを収集し、本校の魅力化に繋げる。		A A A
成果	スクール・ポリシーの達成を共通目標に、多様な課題に組織的に対応できた。しかしながら、多様な生徒への対応力が一層求められる。次年度は組織改編を一部行い魅力ある学校づくりを一層推進する。			総合評価 A